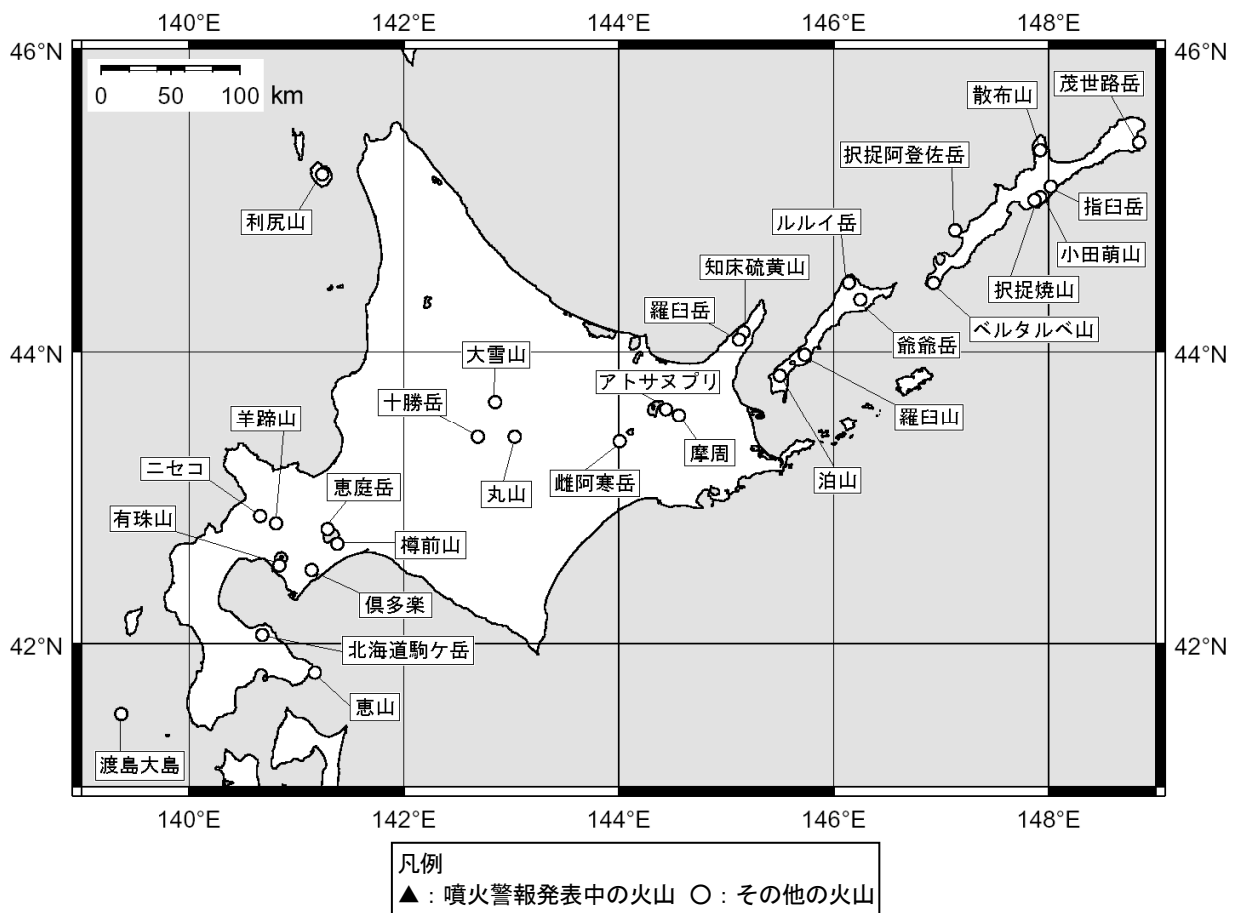


管内月間火山概況（平成 21 年 4 月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（4月30日現在）

噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）	：雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳
噴火予報（平常）	：知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルペ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入しています。

この管内月間火山概況は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 21 年 5 月分）は平成 21 年 6 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁の他、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道、北海道立地質研究所及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

各火山の活動及び予報警報事項

雌阿寒岳では、4月10日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）へ引き下げ、火口周辺警報を解除しました。その他の火山の予報警報事項に変更はありません。

雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山性地震の発生状況は1月下旬以降概ね低調に推移し、火山性微動は3月19日以降発生していません。また、噴煙活動も次第に低下しています。

以上のように、火山活動は落ち着いた状態となっており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったことから、4月10日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）へ引き下げ、火口周辺警報を解除しました。

火口内では引き続き噴気活動が続いており、今後も火口内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性がありますので、火口内や近傍では火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。

十勝岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

GPSによる地殻変動観測では、2006年以降62-2火口付近では浅部の膨張を示すと考えられる局所的な地殻変動が継続しています。

地震活動及び62-2火口等の噴煙活動や熱活動は低調に推移していることから、ただちに火口周辺に影響を及ぼすような噴火に結びつくとは考えていませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

A火口及びB噴気孔群では高温の状態が続いていると推定されます。山頂火口原内の溶岩ドーム及びその近傍では、火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。また、2006年以降みられている溶岩ドーム付近浅部の膨張を示すと考えられる局所的な膨張が継続していると推定されます。

地震活動や噴煙活動は静穏で、広域の地殻変動も観測されておらず、ただちに火口周辺に影響を及ぼすような噴火に結びつくとは考えていませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

倶多楽〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

恵山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。